

2. 学生協議会実施概要および事業説明会、施設見学について

1) 事業の実施体制

本事業では、異なる分野（工学・医療・福祉・デザイン・社会科学・人文科学系）の学生が検討チームを組織して（表 v-2-1）、介護現場のニーズを踏まえた介護ロボットについてアイデアを検討し、形にすることを目的としている。チームは、各専門領域の学生をバランスよく配置した構成とし、チームごとにリーダーを選出して、学生の自主運営による議論を重ねつつ検討を進める。また、チームごとに医療福祉の専門家である作業療法士を委員長として配置し、チーム運営や専門的観点からのアドバイスを必要に応じて得る体制を構築する（表 v-2-2）。また、学生の所属する大学などの教員においては、協議会への参加および各専門的見地からのアドバイスも可能とした（表 v-2-3）。さらに、本事業の円滑な事業の推進を行うために設置された介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会学生協議会推進委員会（以下、推進委員会（学生協議会））委員（医療・福祉、介護、工学、デザイン各領域の有識者）からのアドバイスを、進捗報告会ごとに得られる体制を構築した（表 v-2-4）。

表 v-2-1 学生協議会参加学生

協議会名	人数
オークリー	10名
モビリティ専隊令和X	9名
ガガーリン	10名
D	9名
Amaze	9名
オブザーバー	1名

表 v-2-2 学生協議会委員長

氏名	協議会名	所属
中村 美緒	オークリー	東京大学 高齢社会総合研究機構
露崎 雄太	モビリティ専隊令和X	おゆみ野中央病院
田村 孝司	ガガーリン	株式会社 global bridge HOLDINGS
佐藤 隼	D	さがみりハビリテーション病院
高吉 亮平	Amaze	東名厚木病院

表 v-2-3 学生協議会学生担当教員

氏名	所属・役職
桑江 豊	城西国際大学福祉総合学部理学療法学科 助教
三枝 亮	神奈川工科大学創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 准教授
下村 義弘	千葉大学大学院工学研究院人間生活工学研究室 教授
白石 光昭	千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 教授
諏訪 さゆり	千葉大学大学院看護学研究科訪問看護学領域 教授

高橋 香代子	北里大学医療衛生学部リハビリテーション学科 教授
高橋 芳弘	千葉工業大学工学部機械工学科 准教授
松本 博子	女子美術大学芸術学部デザイン・工芸学科 教授
兪 文偉	千葉大学フロンティア医工学センター 教授
吉井 智晴	東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科 教授

表 v-2-4 学生協議会推進委員会委員

氏 名	所 属
○本田 幸夫	日本医療研究開発機構プログラムスーパーバイザー 大阪工業大学 教授
岡田 雷太	株式会社エヌアールイーサービス NRE新川崎弥生テラス施設長 タ佳ゆめみがさき施設長
小野 栄一	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 所長
木村 哲之	公益社団法人全国老人福祉施設協議会 副会長
琴坂 信哉	埼玉大学大学院理工学研究科人間支援・生産科学部門 准教授
相良 二郎	神戸芸術工科大学芸術工学部プロダクト・インテリアデザイン学科 学科主任 教授
時本 ゆかり	大阪人間科学大学医療福祉学科 准教授
東 祐二	国立障害者リハビリテーションセンター研究所障害工学研究部 部長
古川 和稔	東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 教授

(○：委員長)

2) 事業のプロセス

協議会の事業プロセスは、まず介護施設見学やインタビューをとおして、介護現場の実際を知ることから始める。その後、学生自らが興味をもったニーズについて調査・分析を通じて理解を深め、解決方法の検討などを行い、開発コンセプトおよびアイデアを明らかにした。最終的に、介護ロボット開発のコンセプトおよび具体的なアイデアに応じたプロトタイプを作製を行い、成果を発表する。また、事業開始から最終報告会までの6カ月間に定期的な進捗状況の報告会（3回）を実施し、学生協議会推進委員会よりアドバイスを受けつつ事業を進める（表 v-2-5）。

最終報告会では、本事業における受託機関である一般社団法人日本作業療法士協会会長名にて、参加証を各学生に発行するとともに、優秀な取り組みに対して表彰を行うこととした。さらに、最終報告会が終了した後も、学生協議会による取り組みを広く周知することを目的として、国際ロボット展、介護ロボット東京フォーラム、介護ロボット全国フォーラムにおいて、口頭発表やブースでの展示を行うこととした。

尚、本事業における学生協議会チームの編成及び事業プロセスは、福祉機器開発のための人材育成プログラムであるニーズ&アイデアフォーラムの手法をベースとして実施した。^{1) 2)}

表 v-2-5 学生協議会の事業プロセス

1. 介護施設見学・インタビュー（介護現場のニーズ調査・分析）
2. 介護ロボットの開発コンセプトに向けたアイデア出し
3. 開発コンセプトのプロトタイプ作成

4. 介護現場におけるプロトタイプの評価およびプロトタイプへの反映・ブラッシュアップ
5. 進捗報告会
6. 最終報告会
7. 介護機器展示会における事業成果発表
8. 事業報告書の作成

3) 事業説明会の実施概要

事業説明会においては、参加する学生、関係者が一堂に会して、開会挨拶と関係者の紹介を行った後に、①事業の実施体制、②事業のプロセス・スケジュールなどについて説明を行った。併せて、③事業の理解を深める目的で、長倉寿子氏（厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官）および松本博子氏（女子美術大学芸術学部 デザイン・工芸学科）による関連事項のレクチャーを行った。またプログラムの最後に、学生チームごとのミーティング時間を設けて、顔合わせやリーダーの選出、今後のスケジュール確認、連絡先の交換などを行った（表 v-2-6）。

表 v-2-6 事業説明会のプログラム

	概 要
日 時	令和元年6月22日（土） □開会13:30 □閉会16:30
場 所	TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター
プログラム	<p>13:30 開会の挨拶 日本医療研究開発機構プログラムスーパーバイザー 大阪工業大学教授 本田 幸夫</p> <p>13:35 事業関係者の紹介</p> <p>14:05 事業概要とスケジュールについて 一般社団法人日本作業療法士協会 事務局</p> <p>14:20 講義1「介護を必要とする高齢者に関わるための必要な知識」 厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官 長倉 寿子</p> <p>15:10 講義2「共に創る：異分野の連携で起こすイノベーション」 女子美術大学芸術学部デザイン工学科 松本 博子</p> <p>15:40 質疑応答</p> <p>15:50 閉会の挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課 課長補佐 立花敦子</p> <p>16:00 チームミーティング ※今後の予定等、連絡先の交換など</p>

事業の理解を深める目的で事業説明会にて関連事項のレクチャーとして、以下の2つのテーマで講演を行った。

①テーマ1：「介護を必要とする高齢者に関わるための必要な知識」

講師：長倉寿子氏（厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官）

高齢者の現状と施策の動向、それに伴う介護ロボットの必要性について説明し、高齢者を支援するために必要なポイントとして、高齢者の疾患の特性や支援サービス提供のポイントなどについて解説した。

②テーマ2：「共に作る：異分野の連携で起こすイノベーション」

講師：松本博子氏（女子美術大学芸術学部 デザイン・工芸学科）

開発のプロセスの始まりは徹底したニーズの掘り起こしが重要であること、それに伴い、想定される典型的な利用者イメージ（ペルソナ）を設定して、開発機器に必要なスペック（仕様）を明確にするプロセスなど、プロダクトデザインの観点から機器開発に必要なポイントについて、事例を示しながら解説した。

4）学生の施設見学

学生の施設見学は、高齢者の状況や介護の実際を知ることが可能であり、現場での困りごとを直に感じる事が期待できる。また、工学系やデザイン系は医療・福祉系と異なり、現場に出向く機会が少ないため、貴重なイベントとして位置づけられる。本事業では、参加したすべての学生が介護保険サービス提供施設をタイプごとに複数見学できるように計画した。表 v-2-7 に学生の施設見学実施状況を示す。

表 v-2-7 学生の施設見学実施状況

施設名	チーム名				
	オークリー	モビリティ 専隊令和X	ガガーリン	D	Amaze
介護付き有料老人ホーム A	●				●
特別養護老人ホーム B				●	●
介護付き有料老人ホーム C	●	●	●	●	●
特別養護老人ホーム D				●	●
介護老人保健施設 E	●	●	●		
特別養護老人ホーム F			●		
特別養護老人ホーム G		●	●	●	●
特別養護老人ホーム H		●			
特別養護老人ホーム I	●				

